

会 議 録

件 名	恋野小学校保護者説明会・意見交換会（第1回）
日 時	令和6年5月25日（土）午後6時00分から午後7時15分
場 所	恋野小学校 体育館
参加者	保護者 15名（家庭数12） 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長 長谷川生涯学習課長、森田教育相談センター長、東川、中山 簗下教育委員、中下教育委員

今田教育長挨拶、丸山教育総務課長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。
なお、出席した保護者には、後日、意見等を記入できる用紙を配布しました。欠席した保護者にも資料を配布とともに意見等を記入できる用紙を配布します。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1－1．初めて説明を聞いたので、いきなり質問は無理かな、厳しいかなと思うのですけれど、いろいろとたくさん聞きたいことはありますが、まずこの資料で、目標年度と書いてある9年とか10年とか11年度と各小学校で違いますが、これはなぜ違いがありますか。

（教育委員会）

まずは、児童数です。それと災害対応の観点から目標年度を定めています。

1－2．児童数だけでは、ちょっと意味がわからないというか、児童数は少ないのはわかりますが、特段、違いがでてくる意味とあまり関係ないのかなと思います。

（教育委員会）

説明不足で申し訳ありません。恋野小学校では地域に根差した学校運営をしていただいていると思うのですが、資料7ページにある、今よりもさらによりよい多様な教育的ニーズに対応できる学習環境というところに重きを置きまして、やはりグループ学習であったり、学び合いであったり、探求学習であったり、その他の友達と一緒に授業の中で学習を行うことで自分の得意なところから、そういう教育環境のために一定の規模を整えたいというのがあります。そういった意味で、令和9年度という形で一度目標設定にさせていただきました。

1－3．それが具体的に9年というのは、そのニーズとかそういうのがあるのですか。

（教育委員会）

申し訳ありません。漏れたところがありました。資料16ページに小学校の場合1学年2

学級以上という、望ましい学校規模のところがございます。こちらの方も目指したいというところで9年度という形でさせていただきました。

1－4. わかりました。恋野小学校だけが9年度に、この1学年2学級というか、この条件に当てはまるということなんですか。例えば、清水とか、他のところも同じような条件であろうという、私の認識ではあるのですが、そこら辺とのバランスというか、時期のずれとか、その辺がないのかなというところが気になりました。

(教育委員会)

順番に9、10、11年度というのは、一度にさせていただくことは、とても無理がありまして、災害対応の境原小学校もあるのですが、そういったことを含めて、順番にということ考えています。

学校再編を考えるとときには、やはり3年はかかるだろうという認識です。といいますのは、保護者さんと対話し、説明して、教育委員会の方針をご理解いただきたいということであったり、例えば、この方針が計画に決まっても準備というのが必ず必要となってきます。そういった期間を考えますと、急いでも3年はかかるであろうということで、今、令和6年度に入ったばかりですが、9年度を最短の目標年度とさせていただいている次第です。

1－5. わかりました。なぜ、ちょっと9年度にこだわるかという、子供の学年のこともあるし、今、恋野小学校に通っている、途中で変わるという学年がたくさん出てくる。そのまま統合で廃校になって変わる学童とか児童の方が、いろんな気持ちのものとかがあるのかなと思います。その辺のことでこのタイミングとか、どうなのかなと思いつつ、そのフォローとかも気になります。変わってこうなるなら、逆に言うと、今行っている子供たちは、もうこのまま恋野小学校で卒業させてあげて、決まっているのだったら、そこから向こうは新たに小学校は違うところが決まっていますよという形でスタートさせるとか、いろいろそういう検討というか、その辺はどうなのか。小学生になって、ちょっと微妙な時期に移って、逆に規模の小さいところから大きいところに入ったら、うまくやっていけるのかなというか、それも5、6年生最後の時期とかに転校することになってしまう。中学校で隅田中学校に行って、人数少なくて合同になるというのは、みんなわかって生活していると思いますが、廃校になったりとかすると、そこが一番皆さん気になっているのじゃないかと思うんです。その辺、この時期とかの関係とかで、まだ検討の余地があればその辺も含めて何か最善の策を考えてほしい。橋本市なりのいろんな流れがあるのはもう仕方ないのかなと思うところもあるのですが、そこら辺を単純に9年で切られたとなったら、やっぱり、この当事者の学年とか、当事者の皆さんとかは、いろいろ思うところがあるのではなかろうかと思っている次第です。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。資料20ページに適正規模・適正配置に取り組む上での留意

点という中の③に、児童生徒の環境変化への対応というところがございます。やはり学年が小さい小学生のお子さんが、在学中に環境が変わるというのはとても心の負担が来てしまします。学校施設が変わる、先生が変わる、お友達の環境が変わる、クラスの人数が変わるということで、いろんな変化があります。そういったところは、学校を含めた教職員と連携して、そのフォローに入るのは当然だと考えます。やはり、子供さんの特性というのがあります。まずこの方針を進めさせていただくとなれば、やはりそういったフォロー、ケアは十分に行っていく必要があると考えています。

あと公表の時期のことですが、今在学の児童さんが卒業するまでというお話もあったかと思ひます。それも私たちも考えました。児童数は少なくとも、少ないなりのいい授業はあるのですが、このまま6年生まで引っ張っていいのか、というのも正直、教育委員会として考えたところがあって、やはり一定のクラス規模で一緒に学習をしていただく、それで中学校行っていく方がよりよい環境だと考え、今回の方針をださせていただいた次第です。

1－6. やはり先ほど言われていたところが一番ちょっと心配するところですが、フォローというところを言われていましたが、これはフォローとして、2年後から隅田小学校との交流として授業を一緒にするとか、そういうのも含めての交流という意味でしょうか。

(教育委員会)

先ほどのことで補足をさせていただきます。学校教育課では、このことについて何度も議論をしていますが、その中で、やはり今、橋本市内にある小学校、中学校の先生、それぞれ児童生徒の規模がありますが、それぞれの学校で先生が本当に尽力して子供たちと関わっている、向き合って子供たちの力を伸ばそうと努力しているということは、どこの学校でもいえることだと自負しています。そういうことなので、恋野小学校の児童数が少ないから駄目だということではありません。これは皆さんにもお知りおきいただけたらと思っています。そのような中で、より学習を進めていく上で、たくさんの子供たちと接していく機会があればいいのにとということがありました。この後の恋野小学校の児童数の推移を見ていきますと、中には、本当に1人2人で6年間過ごしていかなければいけない子供さんもおられます。もちろんこの歴史ある114年でしょうか、歴史あるこの恋野小学校で学ばれることというのは本当に幸せだと思っているのですが、やはり少しでも多くの子供たちと一緒に過ごしていく機会を作っていくというのは必要ではないかと感じています。

先ほどの説明の中にもありましたが、学習する方法が、私たちの幼いころに比べて本当に変わってきています。今、子供たちはみんなタブレット端末を活用して、インターネット経由で多くの離れた子供たちとも交流することができます。そのような形で、例えば、近隣の隅田小学校の子供たちと連絡を取り合って交流をするという方法もありますし、また実際に隅田小学校へ行って、定期的に交流をしていくということも十分考えられるし可能であると考えます。そこにつきましては、校長はじめ恋野小学校の先生にも相談をして、また取組んでいただけるようにと思っています。そのような形で子供たちへのフォローはできるか

なと思っています。

2-1. 今のお話を聞いた中で、例えば、恋野小学校1年生から1人ですよ。そのまま1人が、いきなり大多数の中の生徒の中に混じって、果たしてそれでその子が始めるのかというのが不安なわけですけど、実際、今、小学校同士の交流というのは、ないと思うのです。ただ、今も言いたみたいに、事前に一緒に授業を受けたりとかという、そういう試みとかというのは考えているのでしょうか。

(教育委員会)

ありがとうございます。今、実際1年生のお子さんが1名ということですが、今のご質問の答えをさせていただきますと、校長とも相談をしなくてはいけないのですが、実際にその隅田小学校へ定期的に行って、そこで交流をするということは可能だと考えています。

2-2. そういう方向で話は進めてくれるという考えという認識でいいですね。

ただ、今、4年生までの子は恋野小学校で卒業できます。これからの子は、恋野小学校で卒業できません。ということですけど、ただ、今年は1人で来年は何人、その次は何人っていうのはわからないですが、その子たちが恋野小学校じゃなくて、もう隅田小へという考えとかもあるのですか。恋野小学校に一度も通学しないで、そのまま隅田小へ行った方が普通に考えたら馴染むのも早いと思いますし、恋野小学校で今年の1年生の子が最後の入学生でとした方が、それはもちろんスムーズにと思う。そういうのはもう別に考えないで、今までどおり普通に恋野地区の方は、恋野小学校に入って、令和9年まではそのまま継続していくということでもいいのでしょうか。

(教育委員会)

学校教育法施行規則というのがありまして、そこには市町村が、その学校の校区というのを定めるとともに、保護者はその定められた学校に子供を通わせるという義務があると定められています。現時点では、恋野小学校の校区にお住まいのお子さんについては、恋野小学校に通っていただくということになっています。ただし、この施行規則の中には、特別な事情がある場合は、それは教育委員会と相談をして、申請をした上で認められた場合には、別の学校に行くということも可能となっています。ただ、その特別な事情といいますのが、本当に学校に馴染めなかったりという、よくない表現ですが、もしもいじめがあつて、学校行けなくなってしまった、その学校に行けないから、別の学校行かせて欲しいというような事情であつたり、或いは中学生だと、クラブ活動が自分の行くべき校区の中学校にやりたいクラブがなくて、専門的にやりたいクラブが別の学校にあるんですと、そういう場合には申請をしていただけたら、認められるという可能性はあります。今回のような、この学校再編にかかる理由というのが、現時点では市の方でも認められてはいないので、皆さんの今のようなご意見をいただくことで、また協議をして、これが可能になるかどうかというのは、その協議の上で判断をしていくということになります。

2－3. ありがとうございます。いろいろ考えていただいていることもたくさんあると思うので、今回、全員が参加しているわけではないと思います。こういう会を頻繁にやっただくというのは、保護者からの希望としてはあるのですが、あとはこれから入学してくる家庭の方にもこういう説明をしていただかないといけないと思います。その辺もフォローの方をお願いしたいと思います。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。こういう機会のことですが、とりあえず学校再編の対象となっている学校を先に回らせていただいた後、次に地域説明会という形で入らせていただくのですが、その地域説明会のときに、未就学のお子さんをお持ちの保護者さんにも、子供園とかにも協力をいただいて、こういった説明をさせていただきたいと考えています。

3－1. 送迎のことを前に書いてあるのですが、隅田小学校でいう下兵庫、河瀬、山内とかいう距離で分けて、していただくという形でもう話は大体進んでいる感じでしょうか。そういう考えはあるのでしょうか。

(教育委員会)

送迎バスで進んでいますかというご質問ですけど、これから同時並行で検討していく予定です。バス事業者さんと、統廃合するまでの間に話を詰めて、お子様の居住地を確認させていただいた上で、ルートや停車場とか、そういったところを考えていく、これから同時に進めていく次第です。やはり通学条件が変わるというのは、お子様に負担がかかりますので、そういったところは同時に動きたいと思います。

3－2. ありがとうございます。あと1つですが、これは地域性のところがすごくあると思うのですが、やはり恋野橋がありまして、次に橋本橋となるんですよ。隅田中学校区で言うと、恋野橋しかないというところで、今後やっぱり統廃合されて友達の交流のところで、そこは問題になるところかなという、今お話してもどうしようもないところですけども、そこはどうしてもこの地域性というところはあるので、ちょっと市会議員の方も来ているということも含め、子供のことも考えて、ただもう一本というのは欲しいところではあります。

4－1. 今の質問していただいたところと関連しますが、バスは一応ありきということで考えていけばいいですかね。今のお話だったら多分、隅田小とかはバスがあるのかなと思うので。ここは、昔に恋野、上田とかで走っていたバスもなくなっている状況で、なかなか通学バスとかはあるよとは言っていただいても、実際に実現するのかなと、すごい不安があります。そこはこの学校編成とともに進んだら、力強くあると言っていただけるものかどうなんかな。できると言っても、ただ、そこはいろんな検討の余地だよと言うのか、検討はするけどやっぱり厳しいよとなるのかっていうのは、すごくこちら側としては、実際どう

なんかなという、本当にやってくれるのかなというのはすごくあるんですけども。

(教育委員会)

学校再編を進め、計画していくとなると、通学手段は改善すべきと考えています。やはり通学手段は同時に検討すべきと考えています。

4-2. 分かりました。すごく期待します。あと、細かいとこですけども、体操服とか変わっちゃうよというときの分は、そこは実費で費用がかかるのか、そういうのを補償してもらえるのか、それともそのまま行くのか、そういういろんな費用的なところとか、その辺も家庭的なフォローはいかがでしょうか。

(教育委員会)

今日はこの基本方針の説明、意見交換になるのですが、実際これが計画になった場合は、統合準備会といいまして、例えば、体操服であったり、制服があったり、帽子であったりという、統合先の学校にどうやっていくかと話し合いをします。その中で、まだ決まってないので確実なことは言えませんが、新たに費用が発生するとなるものは、統合しなかったら発生しないものなので、そこはやはり、確実なこととは言えませんが、考えていくべきと考えています。

4-3. わかりました。あともう1つ、私は上田の方なので、恋野の皆さんなら隅田小にすんなり来るかなと思うのですが、フォローの一環で、いろんな選択肢的なものを、例えば、校区も本当にそのまま今までであった小学校で中学校区ですが、そういう流動的に変わる子は、近くの清水小とかの方に、清水小が1年残るのならそちら側に編入するとか、橋本小に選択肢があるとか、何か選べたり、ちょっと特別な措置みたいな感じになってしまうのかなと思うのですが、ここに書いている恋野小学校のいいところとか、小規模小学校でいいところとかというところ、すごく大事にされている保護者の方とか、子供さんとかに合ったところを選ばせてあげたいとか、という意味での枠を超えたようなフォローみたいなところというのは出来ないのかなと思います。

(教育委員会)

先ほど別の小学校で説明会をした中でも、同じようなご意見をいただいたのですが、再編統合の対象となっているときに、今日は学校再編のお話はさせていただいたのですが、指定校区の変更であったり、選択制というのは協議していないので言うことができないんです。恋野小学校の保護者さんからいただいたということで、持ち帰らせていただいて考えさせていただければと思います。

4-4. わかりました。いただいたこの統廃合の検討で、いい面、悪い面とかいろいろ検討させていただいて、もちろん少ないなりに、その一方で書いているマイナス面を克服すると、こんなこといいことがあるんだよというのはわかるんですが、反面この良さという

ころがなくなることについては、あまりこの資料では、この良さをなくなったときに、どういうふうにあるんだよというのは書かれてないかなと、それが、私たちが一番のマイナスだと思います。恋野小学校で、この前6年生卒業したときも皆本当にここに書いてあるとおり、いい学年でいい子たちで恋野小学校はすごいなと、自分がいたときよりもすごく人数少なくなっただけ、こんなにいいんだなと思って、みんな優しく真面目で、多分それはここでしかない他の小学校にはないかなと。隅田小学校に行ったら、もしかしたら、良さがいっぱいあったのがなくなっちゃうかなと思います。ならば、いろんなフォロー面でという話があったみたいで、こういう形態を維持しながら、いわゆる分校みたいなイメージで交流を広げたり、形はここで、校長先生はいなかったりと規模はなんですが、メインは隅田小学校だけ一応基本的な拠点は恋野小学校にあるとかをしながらやっていけば、すごいこの良さが生かしつつ、これから橋本市全体で人数が減って行って、どこも少なくなっていくのであれば、市としての小学校を検討されても、ずっと減っていくのであれば、今度その良さを生かしてやっていくのなら、そういう小規模を生かしつつ交流を深めてやっていくというのが、これからの1枚目のこの時代のニーズに、場所とかそんなにこだわらず、いろんな経験も流動的につめて、個人個人の良さも交流も深めつつという橋本しかできないような教育というのをやるには、こういう小さいスケールを残しつつ、小さいスケール同士の結びつきを強くしていくというイメージというのもあってもいいんじゃないかなとすごく思ったんです。

国からきているこの統廃合という枠とかいろいろあるんですが、橋本市なりのそここのまれていったらどうなっていくのかなというのが、すごい見ていろんな苦労されて、この枠組みも入れないといけないし、そういう教育のよさも当然あるので、それはすごい理解できたんですけど、やっぱり恋野小学校代表としては、何とかその良さを知ってもらいたいなと思ったら、こういう形の部分を残したような検討というのも、もう一度改めて本当に小学校に行ってる皆さんとか、そんな気持ちが強いのではと言いが難しいのですが、すごくここでしかないとはみんな感じているのではと、他の学年の方とかはあまり影響ないからですけど。代表をしているので、そういう何とかこういう形を、なくなるありきというのもわかるんですけど、この良さとかをもう一度見直しつつ、このなくなっちゃう良さをどうする、どこでどうフォローしてくれるのかというところも検討していただきたいなと思うところです。

(教育委員会)

ありがとうございます。毎日ではないですが、恋野小学校のホームページを拝見させていただいています。今、おっしゃっていただいたように、6年生送る会を学年別にされている風景が載っており、それを見させていただいて、それぞれの学年の子供たちが、6年生を送り出している姿というのを、ホームページ上ではありますが、見させてもらうことができました。それから、他の学校にもあるのかなとは思いますが、先生と子供と保護者の方の親睦レクリエーションとかもすごくされているという、それもこの恋野小学校だからこそ開催し

やすいのかなというのを感じたりもしました。学校もそうですけども、地域と子供が、恋野のうつくし大作戦というんですか、地域でゴミ拾いをして、それを学校に持ち寄って分別をしていくという、そういう取組みというのやはりこの恋野地域ならではのと思います。また、地域の方は、アイガモ農法の体験であったりとか、学校菜園とかでお手伝いをいただいたり、子供たちが夏野菜や冬野菜を頑張って作っておられる。やはり恋野独自の取組みというのを見させていただいています。今、ここに自転車クラブの自転車もありますが、県大会で30年近く、多分優勝されていると思うのですが、そのことも十分感じているところです。

今いただいた、その良さをどんなふうにして残していけるのかという部分については、本当にちょっと宿題をいただいたのかなと思っていますので、また、教育委員会の中でも考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

説明会に出席していただいた保護者の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された保護者から提出いただいた意見の内容です。

5. スクールバスの運行についての具体案を説明会の時点ではっきり決めて説明するべきだと思います。

恋野小学校は、その後どうなるのですか？子供たちが遊ぶ公園がないので、遊び場として校庭は開放してほしいです。

人的な支援としての配置ですが、恋野小学校の先生が隅田小学校に配置されることで、子供たちが安心できることもあろうかと思います。

6. 統合した場合、恋野小学校組は、同じクラスにしていただけるようにご配慮いただけると幸いです。

7. 子供たちの安心、安全が守られるように方針が進んでくれれば良いと思っていますので、よろしくお願いいたします。

8. 子供が支援学級に在籍しています。恋野小の支援学級の担任していただいている先生も、合併の際は一緒に隅田小の方へ異動していただきたいです。環境も変わり、担任の先生も変わることになると子供たちも不安だと思います。

合併することには、仕方がないことだと感じていますが、子供たちに負担のないよう配慮していただきたいです。

9. 今年4月より転校し、小規模な人数、校舎も広すぎないとの事で恋野小学校を魅力に感じ、校区外ながらも住民票登録を変更し転校をしてきました。3年後には、隅田小学校と統合されるとの事で、少子化が進み致し方ない事だとは思いますが。

息子は現在、支援学級へ通級し、学力が遅れながらも毎日楽しく勉強にも取り組んでおります。その事から私の希望としましては、恋野小の支援学級の担任の先生を統合後も担任として配属していただけるよう強く望みます。生徒数が少人数の学校から大人数に変わる事、取り巻く環境全てが変わってしまうため、心身ともにストレス負荷が大きいと思いますので、せめて支援学級の担任者だけは変えずに、少しでもストレスを少なくし、学級環境に馴染めるように努めてほしいです。よろしくお願いいたします。

10. 少子化に対応した、各小学校の統合時、子供たちのストレス等の気配りをお願いします。(環境の変化やいじめ)